

国
語
検
査
問
題

一 次の①～⑩の傍線部について、漢字は平仮名に、片仮名は漢字に改めなさい。

- ① 包丁を研ぐ。
- ② すぐに事態を掌握する。
- ③ 昔からの戒めを守る。
- ④ 色彩が微妙に変化する。
- ⑤ 作品に意匠を凝らした。
- ⑥ 夕日で空が赤くソまる。
- ⑦ 飛行機をソウジウする。
- ⑧ 父のキヨウリは三重県だ。
- ⑨ 収穫した米をチヨゾウする。
- ⑩ 木のミキから枝が伸びる。

二 次の文章は、小学六年生の雪乃が、曾祖父(父の祖父)である茂三と早朝から農作業をすると約束をしていたが、寝坊してしまった場面を描いたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

慌ててパジャマのまま台所へ飛んでいくと、ヨシ江が洗い物をしているところだった。

「シゲ爺は？」

「ああ、おはよう。」

「おはよ。ねえ、シゲ爺は？」

「ざつき出かけてっただわ。」

「うそ、なんで？」

ほんのちよつと声をかけてくれたらすぐ起きたのに、どうして置いていくのか。部屋を覗いた曾祖父父母が、へよく眠ってるだわい。可哀想だからこのまま寝かせとくだなどと苦笑し合う様子が想像されて、地団駄を踏みたくなる。

「どうして起こしてくんなかったの？ 昨日あたし、一緒に行くって言ったのに。」

するとヨシ江は、スポンジで茶碗をこすりながら雪乃をちらりと見た。

「起こそうとしただよ、私は。けどあのひとが、ほっとけつて言うだから。」

「……え？」

「雪乃が自分で、まっとう早起きして手伝うから連れてけつて言っただわ。こつちが起こしてやる必要はねえ、起きてこなけりや置いてくまでだ』つて。」

心臓が硬くなる思いがした。茂三の言うとおりだ。

無言で洗面所へ走ると、超特急で顔を洗い、歯を磨き、部屋へ戻ってシャツとジーンズに着替えた。ぼさぼさの髪をとかしている暇はない。ゴムでひとつにくくる。

土間で長靴を履き、

「行つてきます！」

駆け出そうとする背中へ、ヨシ江の声がかかった。

「ちよつと待ちない、いつてえどこへ行くつもりだいや。」

雪乃は、あ、と立ち止まった。そうだ、今日はどの畑で作業しているかを聞いていない。

「そんなにまっくろけえして行かんでも大丈夫、爺やんは怒っちゃいねえだから。」

ヨシ江は笑つて言った。へまっくろけえしてとは、慌てて、という意味だ。目の前に、白い布巾できゅつとくるまれた包みが差し出される。

「ほれ、タラコと梅干しのおにぎり。行つたらまず、座ってお食べ。朝ごはん抜きじゃあ一人前に働けねえだから。」

「……わかった。ありがと。」

「急いで走ったりしたら、てつくりけえる(ひつくりかえる)だから、気をつけてゆっくり行くだよ。雪ちゃんが後からちやーンと行ってくつて、爺さんにはわかってたわい。いつもは出がけになーんも言わねえのに、今日はわざわざ『ブドウ園の隣の畑にいるだから』って言っただだもの。」

再びヨシ江に礼を言つて、雪乃は外へ出た。

あたりはもう充分に明るい。朝焼けの薔薇色もすでに薄れ、青みのほうが強くなっている。すっかり春とはいえ、この時間の気温は低くて、息を吸い込むとお腹の中までひんやり冷たくなる。

よその家の納屋に明かりが灯ともっている。どこかでトラクターのエンジン音が聞こえる。農家の朝はとつくに始まっているのだ。大きく深呼吸をしてから、雪乃は、やつぱり走りだした。

長靴ががぼがぼと鳴る。まっくろけえしててつくりけえることのないように気をつけながら、舗装された坂道を駆け上がる。ふだん軽トラックですいすい登る坂が、思ったよりずっと急であることに驚く。

息を切らしながらブドウ園の手前を左へ曲がり、砂利道に入つてなおも走ると、畑が見えてきた。整然とのびる畝うねの間に、紺色のヤツケを着て腰をかめる茂三の姿がある。急に立ち止まったせいで足がもつれ、危うく本当にてつくりけえりそうになった。

「シ……。」

張りあげかけた声を飲みこむ。

ヨシ江はあんなふう言つてくれたけれど、ほんとうに茂三は怒っていないだろうか。少なくとも、すぐくあきれているんじゃないだろうか。謝ろうにも、この距離ではどんなふうに切り出せばいいかわからない。

布巾でくるまれたおにぎりをそつと抱え、立ち尽くしたままためらっている、茂三が立ちあがり、痛む腰を伸ばした拍子にこちらに気づいた。

「おーう、雪乃。やーつと来ただかい、寝ぼすけめ。」

笑顔とともに掛けられた、からかうようなそのひとりで、胸のつかえがすうつと楽になつてゆく。手招きされ、雪乃はそばへ行った。

「ごめんなさい、シゲ爺。」

「なんで謝るだ。」

ロゴの入った帽子のひさしの下で、皺しわばんだ目が面白そうに光る。

「だつてあたし、あんなえらそうなこと言つといて……。」

「それでも、こやつて手伝いに来てくれただに。」

「それは、そうだけど……。」

「婆やんに起こされただか？」

「ううん。知らない間に目覚ましを止めちゃったみたいで寝坊したけど、なんとか自分で起きたよ。」

起きたとたんに(げえつて)叫んじやった、と話すと、茂三はおかしそうに笑つた。

「いやいや、それでも(たいたしたもの)えしたもんだわい。いつつも、婆やんがぶつくさ言つてるだに。『雪ちゃんは、起こしても起こしても起きちゃこねえで(どうしようもない)おえねえわい』つって。それが、いっぺん目覚まし時計止めて、それでもなお自分で起きたつちゅうなら、そりゃあなおさらてえしたことだぞほー。」

「……シゲ爺、怒つてないの？」

「だれえ、なーんで怒るう。起きようと自分で決めて、いつもよりは早く起きただもの、堂々と胸張つてりゃいいわい。」

雪乃は、領いた。目標を半分しか達成できなかったのに、半分は達成できた、と言ってくれる曾祖父のことを、改めて大好きだと思った。
「雪のなまえ」(村山由佳)による。

(注) ヨシ江Ⅱ雪乃の曾祖母。 シゲ爺Ⅱ茂三のこと。

ヤツケⅡ防寒用の上着。

問一 ¹ すぐと同じ品詞の言葉を、ア、エから選び、符号で書きなさい。

ア 静かな環境で学習する。

イ 日が暮れるまで練習する。

ウ 部屋をそつと出る。

エ 早い時間に出発する。

問二 ² 茂三の言うとおりでとあるが、このときの雪乃の気持ちとして最も適切なものを、ア、エから選び、符号で書きなさい。

ア 初めは起こしてもらえなかったことに悲しさを感じていた

が、ヨシ江から茂三の言葉を聞き、自分は茂三との約束を守

れていたのだと気づき、満足している。

イ 初めは起こしてもらえなかったことにいらだちを感じてい

たが、ヨシ江から茂三の言葉を聞き、自分の言動の無責任さ

に気づき、後悔している。

ウ 初めは起こしてもらえなかったことに寂しさを感じていた

が、ヨシ江から茂三の言葉を聞き、自分に対する期待の高さ

に気づき、うれしくなっている。

エ 初めは起こしてもらえなかったことに怒りを感じていた

が、ヨシ江から茂三の言葉を聞き、自分の思いが茂三に誤解

されていたことに気づき、残念に感じている。

問三 ³ 雪乃は、やっぱり走りだしたとあるが、このときの雪乃の

気持ちとして最も適切なものを、ア、エから選び、符号で書き

なさい。

ア ゆっくり行こうとしたが、体全体がすっかり冷えていたの

で、体を動かして早く温まろうと考えるようになった。

イ ゆっくり行こうとしたが、あたりが充分に明るいことに気

づき、このままでは朝ごはんが食べられないと焦りだした。

ウ ゆっくり行こうとしたが、よその家の明かりを見て、薄暗

い中を一人で歩くことを不安に感じた。

エ ゆっくり行こうとしたが、周囲の農家の様子がわかるにつ

れて、のんびりしてはいられないと思い直した。

問四 ⁴ 立ち尽くしたままためらっているとあるが、雪乃が立ち尽

くしたままためらっているのはなぜか。四十五字以上五十字以

内でまとめ書きなさい。ただし、「声を」という言葉を使い、

「茂三が自分に対して」という書き出しに続けて書くこと。

問五 ⁵ 雪乃は、領いたとあるが、次の [] 内の文は、こ

のときの雪乃の様子について、本文を踏まえてまとめた一例で

ある。 [A]、 [B] に入る最も適切な言葉を、

それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。ただし、字数は

[A]、 [B] にそれぞれ示した字数とする。

茂三との約束を守れず落ち込んでいたが、自分で起きようと決

めて、 [A(十二字)] ことを誇りに思えばよいという茂三の言葉

のおかげで、目標の [B(八字)] と感じる事ができ、自分の行

動を肯定的に捉えてくれる茂三を、改めて大好きだと思ってい

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、◇は、それぞれの段落番号を表している。

◇ 哲学とはいったいなんでしょうか。

◇ 人間は生きてゆくかぎり、必ずなにか行為をしなければなりません¹。われわれはなにも行為しないでは一日も過ごすことができません。いや少し極端にいうならば、一瞬間たりとも、行為しないではいられないのです。

◇ 「しかしわたしはきょう一日なにもしないで、ブラブラしていた。」という人があるかもしれません。だが、よく考えてみると、このように「なにもしないで、ブラブラしていた」ということが、すでに一つの行為なのです。なぜなら、その人はブラブラしないで、なにか仕事をすることもできたはずだからです。ブラブラしていたというのは、その人がみずから「なにもしない」という行為を行なったのだといわねばなりません。(中略)

◇ このように人間は常に行為しなければ、生きてゆくことができませんが、このさい重要なのは、人間がみずからの自由によってその行為を選ばなければならないということです。人間は行為を選ぶ自由をもっています。われわれは暇さえあれば寝て暮らすこともできます。また寸暇を惜しんで、勉強したり、仕事に打ち込んだりすることもできます。われわれは日常行なっている一つ一つの行為を、すべてみずからの自由によって決断し、選んでいるのです。

◇ この点に、おそらく、³他の動物と人間とのあいだの本質的な相違があるといえましょう。人間以外の動物はただ本能によって行動しているだけで、自由によってその行動を選んでいくわけではありません。どうして人間だけが、このように行為をみずから選ぶ自由を

もっているのかということはおそらくもはや人間の解きえない問題であるといわねばならないでしょう。しかしとにかく、人間が自由をもっており、それによって行為を選択している⁴ということは、否定することのできない事実だといわねばなりません。

◇ わたくしは必ずしも、人間が行為を選択する自由をもっていることがよいことなのだというわけではありません。人間は自由をもっているから、他の動物にくらべてすぐれているのだというわけではありません。むしろ、わたくしは、自由をもっているということこそ、人間の悲しい性⁵なのだときえいえるのではないかと思うのです。

◇ 人間に自由がなければ、人間はかえってほんとうに幸福であったかもしれません。(中略)ところが、人間はすでに自由をもっているのです。どんな人でも、いやおうなしに、自分で行為を決定しなければなりません。人生の苦勞はすべてここから生じている、ともいえるかもしれません。

◇ しかし、たとえそれが人間にとって不幸であるとしても、人間が自由をもっているということはどうしようもない事実なのです。われわれがこれに対していかに苦情をいったところで、どうなるものでもありません。われわれはただこの事実を認め、その上に立って行為する外⁶はありません。

◇ フランスの哲学者サルトルは、「人間は自由の刑に処せられている」といっています。まさに、自由は人間のもって生まれた宿命なのだ、といえましょう。人間であるかぎり、われわれにはこの宿命からのがれる道はありません。われわれはこの宿命⁷を甘受⁸してゆく外はありません。

◇ だが、人間がみずからの自由によって行為を選ばねばならないとすれば、そこにわれわれはどうしても自分の行為を選ぶための原理を考えないわけにはいきません。むしろ、われわれは行為を選ぶばあい、必ずなんらかの原理をもち、それにしたがって行為を選んでいくのだということができましよう。

◇ 暇さえあれば寝て暮らして少しも悔いを感じない人は、そういう生き方がよいのだという考え方によって、その行為を選んでいくのです。また自分の利害ばかり考えて、ひとのことを少しも思いやらずに行為している人は、自分の利益だけをはかればよいのだという考え方の上に立って、行為を行なっているのです。

◇ こうして人間は、自由によって行為している以上、どうしても行為を選びその生き方を決定する根本的な考え方をもたないわけにはゆかないのですが、この考え方がいわゆる人生観ないし世界観というものです。そしてこの人生観・世界観がすなわち哲学に外なりません。

◇ もしこういえるとするならば、⁵ 哲学は、人間であるかぎりどんな人でも必ずもっているものだといえましよう。哲学のことなどまったく知らないといっている人でも、実はすでに哲学をもっているのです。
「哲学のすすめ」(岩崎武雄)による。

(注) 甘受¹しかたがないと思つて受け入れること。

問一 人間は生きてゆくかぎり、必ずなにか行為をしなければなりません とあるが、筆者が述べる人間にとつての行為の説明として最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 人間は人間として生まれた以上、なんの行為もしないということはあつてはならず、一日寝て暮らすということは許されないということ。

イ 人間は一見なにもしていないように見えても、寝たり呼吸したりするなど、本能的に生命を維持するために、なにかしらの行為をしているということ。

ウ プラブラするということは生きていくために重要な行為ではなく、人間は勉強したり、仕事に打ち込んだりする義務があるということ。

エ 人間にとつてはなにもしないことを選択するのも一つの行為であり、生きていく以上はなにかの行為をしないではいられないということ。

問二 考えてみる の「考えて」と「みる」はどのような関係か。最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 補助の関係 イ 並立の関係

ウ 主語・述語の関係 エ 修飾・被修飾の関係

問三 他の動物と人間とのあいだの本質的な相違があるといえましよう とあるが、筆者は他の動物と人間とのあいだにはどのような点に相違があると述べているか。二十字以上二十五字以内でまとめて書きなさい。ただし、「人間は」という言葉を使い、「他の動物は」という書き出しに続けて書くこと。

問四 扱 と楷書で書いた場合の総画数が同じになる漢字を、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 版 イ 防 ウ 衣 エ 母

問五 哲学は、人間であるかぎりどんな人でも必ずもっているものだといえましよう とあるが、人間が哲学を必ずもっている理由として最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 哲学は自分の行為を選ぶための根本的な考え方であり、哲学がなければ生き方を決定することができないから。

イ 哲学は人間を自由に導くものであり、人間は哲学によってあらゆる場面で自己の利益をはかることができるから。

ウ 哲学は自由の刑に処せられている人間を不幸から解放し、思い悩まされることのない人生へと導いてくれるから。

エ 哲学は自ら行為を選択しなければならない宿命から人間を解放し、自分が従うべき全ての原理を示してくれるから。

問六 本文中における段落の関係についての説明として最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア ㊦段落では、㊦段落で述べた筆者の主張を否定する意見を示すことで、異なる主題を新たに設定しようとしている。

イ ㊦段落では、㊦段落とは対照的な事例を示すことで、㊦段落の内容を否定しようとしている。

ウ ㊦㊧段落では、㊦㊧段落で述べた内容と異なる視点を示すことで、筆者の主張を明確にしようとしている。

エ ㊦段落では、㊦㊧段落で述べた筆者の主張の具体例を示すことで、筆者の主張を補強しようとしている。

四

次の漢詩は、李白が友人の汪倫に対して、感謝の思いを詠んだものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

贈汪倫 汪倫に贈る

李白 李白舟に乗って

将に行かんと欲す (田発しようとした)

忽ち聞岸上踏歌の声 (ふと)

桃花潭水深千尺 桃花潭水深さ千尺 (とても深い)

不及汪倫送我情 及ばず汪倫我を送るの情に

(注) 踏歌の声 足を踏み鳴らし、拍子をとって歌う声。

桃花潭 汪倫が住む村を流れる川のこと。

問一 この漢詩の形式として適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

- ア 五言絶句 イ 五言律詩
ウ 七言絶句 エ 七言律詩

問二 不及汪倫送我情を「及ばず汪倫我を送るの情に」と読むことができるように、返り点を書きなさい。

問三 次の内の文章は、この漢詩の鑑賞文の一例である。A、Bに入る適切な言葉を、それぞれ

現現代語で書きなさい。ただし、字数はAは五字以内、Bは五字以上十字以内とする。

この詩は、「送別」をテーマにしている。村を舟で出発しようとした李白は、**A**で汪倫が村人たちと一緒に別れを惜しんで歌う姿を見て、汪倫の友情の深さは、村を流れる桃花潭のものであると感じ、汪倫に感謝している。

五

ある中学校で美化委員長を務める田中みずきさんは、全校集会で、掃除への取り組みについて呼びかけるスピーチをすることになった。次の 内のスピーチの原稿を読んで、後の問いに答えなさい。

みなさん、こんにちは。美化委員長の田中みずきです。
今日は、みなさんにうれしいエピソードを紹介したいと思います。
今日は、みなさんにうれしいエピソードを紹介したいと思います。
先日、学校にいらつしゃった地域の方から「校内がきれいだね」ということばをもらいました。その時、私はみんなで掃除に真剣に取り組んできたことが認められたのだと感じ、本当にうれしかったです。
これからも校内をきれいに保ち、私たちが誇りに思える素敵な学校を作るため、積極的に掃除に取り組みしましょう。

問一 もらい を「地域の方」に対する適切な敬語表現に直して書きなさい。

問二 美化委員会では、積極的に掃除に取り組むことを呼びかける標語を作ることになり、次の二つが候補となった。

【標語】

A ひたむきに 一人一人が 動かす手

B 声をかけ みんなで協力 すみずみキレイ

標語A、Bのどちらを掲示するのがよいと思うか。あなたの考えを書きなさい。段落構成は二段落構成とし、第一段落ではあなたの考えを、第二段落ではあなたがその標語を選んだ理由を書きなさい。ただし、次の《注意》に従うこと。

《注意》

- (一) 題名や氏名は書かないこと。
- (二) 書き出しや段落の初めは一字下げること。
- (三) 六行以上九行以内で書くこと。
- (四) 標語AをA、標語BをBと書いてもよい。

国語解答 計100点

(注)「」に示した以外の細部については、学校「」に統一する。

問題	正答	記点	備考
<p>① と ② しょうあへ ③ いまし ④ びみょう ⑤ いしろう ⑥ 染 ⑦ 操縦 ⑧ 郷里 ⑨ 貯蔵 ⑩ 粋</p>	<p>各2点 計20点</p>		
<p>問一 ウ 問二 エ 問三 イ 問四 怒ったりあきれたりしているのではないかと思い、謝らうにも、どのように声を掛ければよいかわからなかった(五十文字) 問五 A いつもよりかは早く起きた B 半分は達成できた</p>	<p>問一 4点 問二 3点 問三 8点 問四 2点 問五 5点 問六 5点</p>	<p>問一 正答の一例である。 次の二つの内容が書かれていること。①「他の動物は本能で行動しているだけ」ということ。②「人間は行為を選ぶ自由をもちている」ということ。</p>	
<p>問一 エ 問二 ア 問三 本能で行動しているだけだが、人間は行為を選ぶ自由(二十四文字)</p>	<p>問一 4点 問二 3点 問三 8点</p>	<p>問三 正答の一例である。 次の二つの内容が書かれていること。①「他の動物は本能で行動しているだけ」ということ。②「人間は行為を選ぶ自由をもちている」ということ。</p>	
<p>問一 ウ 問二 不及汪倫送「我情 問三 A 岸のほとり(五文字) B 水の深さにも勝る(八字)</p>	<p>問一 3点 問二 3点 問三 各4点 計8点</p>	<p>問三 正答の一例である。</p>	
<p>問一 いただき 問二 (略)</p>	<p>問一 5点 問二 10点</p>	<p>問一 正答の一例である。 問二 内容①第一段落で自分の考えが述べられていること。②第二段落でそのように考えた理由が述べられていること。③と表記(表記等に誤りがなく、言葉の使い方が適切であること)④「」について、総合的に評価すること。</p>	